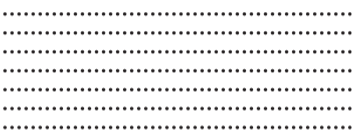
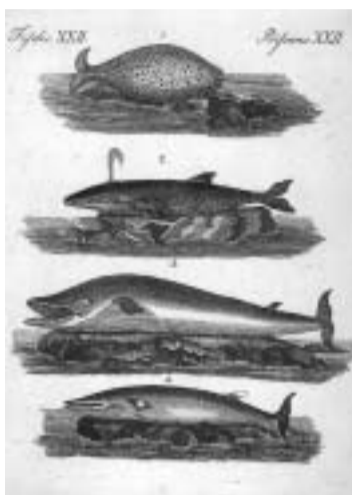


多和田葉子
Yoko Tawada

辞書の

楽しみ



はない。しかし、原稿締切りなどに追われていない日に類語辞典を読んでいると本当に楽しい。ドルンザイフの類語辞典は初版は一九三三年に出たよ

うだが、新しい版はもうろん今でも出版されている。全体が「無機の世界、物質、植物、動物、人間（肉体的な意味での）、空間、長さ、形、大きさ、量、数、度数、存在、関係、出来事、時間、可視性、光、色、響き、温度、重さ、個性、液体・気体、匂い、味、場所の移動、欲することを行うこと、五感、感情、情緒、性格、思考、記憶、伝達、言語、記述、学問、芸術、機械、技術、経済、法道徳、宗教、超自然」の二十章に分かれていて、それぞれ

の項目に分かれている。たとえば、Scholar（目に見える）、という項目には、「あらわれ」という動詞、などの動詞、**「外見」「視界」「可視性」**などの名詞、**「目立つ」「明瞭」**など形容動詞、**「目の中に飛び込んでくる」**などの慣用語などが七十五も集めてある。もっとユニークな項目の例を挙げると、**「Hologram（婚姻関係の不在）」**という項目を見ると、「**「独身」**を表す口語、法律用語などがたくさん並んでいるだけでなく、**「アマン」「書籍」「処女」「御曹子」「女嫌い」「独奏者」「僧侶」**などに当たる単語まで集めてある。意味は

愛書狂

子どもの頃に読んだ物語は本そのものの形状や手触りとともに記憶しているものが多い。私の場合は『小公子』も『小公女』も『フランダーズの犬』も『アルプスの少女』も講談社の名作絵本だった。これに岩波少年文庫と小学館の図鑑を加えれば、昭和三〇年代の子どもの読書のほぼ全容が明らかになる。もちろん昭和も四〇年代になると、優れた児童書が各社から続々と誕生してくるのだが、いずれにしても高度成長期の子どもの基礎教養が、講談社の名作・岩波の新しい文学・小学館の理科系分野の御三家によって担われていたのは間違いないところだが、もっと下になると『フランダーズの犬』や『アルプスの少女』はテレビアニメで見たという世代が登場してくる。そしてディズニー絵本である。先日、五歳の幼稚園児と『クマのプーさん』のことで揉めた。このクソガキは「あ、ティガー」などと生意気な口をきくのである。「トラでしょ」「ティガーだよ」。『クマのプーさん』なら石井桃子訳の岩波少年文庫版に決まっていると思っ

先日、ルーミアニア出身のドイツ語詩人オースカー・パスチオが七十五歳になり、そのお祝にいろいろと催しがあった。その時にある人が、パスチオの詩に「故郷」をテーマとして扱った作品が一つある、と教えてくれた。もちろん、故郷と言っても、移民の身を嘆き故郷を懐かしむ、などという詩を彼が書くわけがない。むしろ、故郷についてのアンソロジーを創るから何か書いてくれ、などと言っ編集者の提案を聞いて、「故郷」なんていうイデオロギーをすっ飛ばさせてやるっ、と思っ書いてに違いないような詩だ。ドイツ語の「Heimat」故郷は歴史的にいかがわしいにおいの染みてしまった言葉で、日本語の「祖国」と同じくらい使いたくない言葉である。そこで、パスチオはHeimatをわざと自分流に分解して「Heim（うち）」と「の」は何のことなのかよく分かっていないつもりだけれど、しか

し残りのでっけて何だろうっ、と言っ、で終わる単語のたくさん出てくる詩を書いた。Automat（自動販売機）とかPogon（剥窃）とか、とにかく、「故郷」という言葉の臭さを解体してしまうような、ぶっつとんだ単語が無数に出てくる楽しい詩である。その話をしてくれた人が、「昔は東ドイツに逆引きのいい辞書があったからこういう時にも役に立つたけれども、今は絶版になって残念だ」とこぼした。東ドイツという国そのものが絶版になって

るので仕方ない。それにしても、なぜ東ドイツがそのような辞書を出していたのかは調べてみたら面白そうだ。わたしはドゥーデンの電子辞書を持っているので逆引きができる。昔は「逆引き辞典」とか「類語辞典」というのは辞書の中では、ちょっとくねくねした生徒のよつなものだと思っていた。つまりきちんとした厚い国語辞典、漢和辞典、な

どが優等生で、英和辞典も優等生で、英々辞典などは最高の優等生であるのに対し、逆引き辞典や類語辞典などはなんとなく主観的で連想にまかせてわたしのよつな人間が遊び半分で創ったものだろうと誤解していた。そういう思い込みは、ドイツのDonatの「ドイツ語の語彙」という類語辞典を作家のアンネ・ドゥーデンが紹介してくれた時に改めた。余談になるが、彼女は名字がドゥーデンでも辞書

を創っているあの有名な出版社ドゥーデンとは何の関係もない。彼女はロンドンにも長いこと住んでいるが、イギリス人の知人などが家に遊びに来ると、一列に並んだドゥーデン社の辞書を見て、あなたはこのように厚い小説をこんなにたくさん書いたのか、と言っ感心するそうである。類語辞典はものを書いている最中には意外に使えないものだ。他にどんな描写の可能性があるか、などという発想

は、その類語辞典が単語を集める感覚は、昆虫採集、植物採集の感覚である。「経済」の章など、十五ページしかないのに、植物や動物の章が百五十ページもあるの、ひょっとしたら、この類語辞典は一種の動植物辞典であって、普通の単語もわたしたちの脳に生息する一種の昆虫または植物として集められているのではないかとさえ思えてきた。考えてみると、普通の辞書のアーキなどは、綴りがあいさお順やアルファベット順に並べた時に隣だといっだけの理由で、意味が無関係の単語どっつが隣り合っ

て載っているところにある。そういう意味では、類語辞典はアーキではない。ここでは、意味に近いものたちが集まっているのだから。人間の頭の中はいっどうなっているのだろう、言葉達はどんな配置で並んでいるのだろう、と辞書を見ているとよく考える。多分、線上には並んでいないだろうといっことは分かる。類語辞典は、グー

ーや章や個々の単語の順番を変えてもいいわけだから、線といっよりパッチワーク的な辞書だと言えるかもしれない。わたしたちの頭の中はそれよりもっと雑然としていて、それぞれの単語から蜘蛛の巣のように放射状に連絡系が伸びて、いろいろな別の言葉と繋がっていて、しかもそれが絶えず重なりあいながら移動しているのではないか、と思っ。そんな形の辞書がもしあつたらいいなあとも思っ。

(筆者=作家)

(洗)

本をめぐる「悲喜こもこも」

「それでも口書を買いました」

鹿島茂著



一九八一年、著者は初の翻訳である映画記号学者クリスチャン・メッツの『映画と精神分析』（小社刊）を手がけていた。記号学の分野は、ひとつの疑問を晴らすのに多くても五、六冊の本があれば足りたので、当時は蔵書の数はまだそれほどでもなかった。だが、あるきっかけで風俗史や社会史に専門を移したことが著者の運命を変えた。

「こちらにはほんの数枚の原稿を書くために何十冊もの資料が必要なのはかりか、研究書だけでは足りず、一次資料の古書を探るようになったのである。当然、本は増えはじめた。古書店はふたつの魅力を秘めていた。資料価値のみならず美術工芸品でもある挿絵本蒐集への道

と、古書店に流れる独特の時間がある。いつ訪れてもそこには、五〇年前と同じ時間が流れている。一種の、過去へのみ行けるタイムマシンだったのだ。だが……古書店が常におなじ空気をまとっているから、いつのまにかある変化をうけていくように、著者の挿絵本コレクションの趣味はじわじわと変化し範囲を拡げてゆく

と、古書店に流れる独特の時間がある。いつ訪れてもそこには、五〇年前と同じ時間が流れている。一種の、過去へのみ行けるタイムマシンだったのだ。だが……古書店が常におなじ空気をまとっているから、いつのまにかある変化をうけていくように、著者の挿絵本コレクションの趣味はじわじわと変化し範囲を拡げてゆく

二〇〇一年のアメリカ同時多発テロから十一日が経過した、九月二十二日、フランス現代思想の重鎮ジャック・デリダが、アドルノ賞を受けた（同賞は、フランクフルト学派の精神に則って、哲学、社会科学、芸術の領域を横断する作品から選ばれ、これまで、ハーバース、ブーレーズ、ゴダールらに授けられている）。その記念講演をまとめた本書にアドルノの友人ヴァルター・ベンヤミンがアドルノの妻グレートル宛に書き送った、一九三九年十月十二日付の書簡。そこでは、ある晩にベンヤミンが見たという不思議な夢が、フランス語で報告され

ていたのである。そして、書名に選ばれている「フィッシュ」という語こそ、ベンヤミンの夢に表われた言葉に他ならなかった。どんな悪夢であったとしても、そこから目覚めると、私たちは失望感を味わいます……。デリダは、ベンヤミンがアドルノ夫人に宛てた手紙から「フィッシュ」という「詩的言語」を拾い出しつつ、「夢の思考法」について語る。グロバリーゼーションが進み均質化してゆく世界のなかで求められる、一つのエチカ。それは、機能的・伝達的手段として国際的覇権を拡大してゆく英語のような言語を前に、「固有言語への愛」を貫くこと。アドルノとベンヤミ

ンをめぐるデリダの講演は、そうした倫理に支えられている。「九月十一日の犠牲者全員に対し、私は絶対的な同情を寄せますが、それでも、この犯罪について何人も政治的に無実であったなどとは信じていない」と申し上げなくてはなりません。無実の犠牲者に対する私の同情は無限ですが、それは、この同情の対象が九月十一日にアメリカで亡くなった人びとだけにとどまらないからです（本書より）。

悪夢のような時代を「脱構築」する、明快な講演である。（逸見龍生訳 四六判 一一〇頁 本体一八〇〇円 1月下旬発売）

悪夢のような時代を脱構築する

「フィッシュ アドルノ賞記念講演」

ジャック・デリダ[著]

二〇〇一年のアメリカ同時多発テロから十一日が経過した、九月二十二日、フランス現代思想の重鎮ジャック・デリダが、アドルノ賞を受けた（同賞は、フランクフルト学派の精神に則って、哲学、社会科学、芸術の領域を横断する作品から選ばれ、これまで、ハーバース、ブーレーズ、ゴダールらに授けられている）。その記念講演をまとめた本書にアドルノの友人ヴァルター・ベンヤミンがアドルノの妻グレートル宛に書き送った、一九三九年十月十二日付の書簡。そこでは、ある晩にベンヤミンが見たという不思議な夢が、フランス語で報告され

ていたのである。そして、書名に選ばれている「フィッシュ」という語こそ、ベンヤミンの夢に表われた言葉に他ならなかった。どんな悪夢であったとしても、そこから目覚めると、私たちは失望感を味わいます……。デリダは、ベンヤミンがアドルノ夫人に宛てた手紙から「フィッシュ」という「詩的言語」を拾い出しつつ、「夢の思考法」について語る。グロバリーゼーションが進み均質化してゆく世界のなかで求められる、一つのエチカ。それは、機能的・伝達的手段として国際的覇権を拡大してゆく英語のような言語を前に、「固有言語への愛」を貫くこと。アドルノとベンヤミ

ンをめぐるデリダの講演は、そうした倫理に支えられている。「九月十一日の犠牲者全員に対し、私は絶対的な同情を寄せますが、それでも、この犯罪について何人も政治的に無実であったなどとは信じていない」と申し上げなくてはなりません。無実の犠牲者に対する私の同情は無限ですが、それは、この同情の対象が九月十一日にアメリカで亡くなった人びとだけにとどまらないからです（本書より）。

悪夢のような時代を「脱構築」する、明快な講演である。（逸見龍生訳 四六判 一一〇頁 本体一八〇〇円 1月下旬発売）

個々の人間を描く肖像画がいかに生成したのかを追跡していく。特にこの二人の画家にはそれぞれ一章ずつを割り、ほとんど評伝に近い形でその生涯と作品を扱っている。ファン・エイクの先輩にあたるカンパンが、細密画の伝統から断絶しながら完全にはなすげられなかったことを、ファン・エイクが完結したさまを記述するページは、本書のハイライトのひとつである。さらに末尾では、フランドルの肖像画とイタリアの肖像画とを比較分析し、人物像とそれを囲む中景および背景の処理の違いについて卓見が披露されている。（岡田温司、大塚直子訳 四六判 三三二頁 本体一九〇〇円）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

個の発見とその称揚

「個の礼讃」

ルネサンス期フランドルの肖像画

ツヴェタン・トドロフ著



本日は、ルネサンス期のフランドルにおいて、個人の肖像画がいかにして出現したか、その跡をたどったものである。「顔を主題とする華麗な画像一覧」ではまったくなく、「表象の歴史」全体のなかで「顔」の持つ意味を解き明かした論考である。フランドル絵画の出現まで、意味に從属していたイメージ（表象）

が、いかにしてその桎梏から解放され、個人の礼讃ある個人がそこに在るといふ事実そのものへの礼讃へと変わっていったかを分析しながら、トドロフはイメージがそれ自体とは別のものを指し示す道具から、それ自体を見つめるしかない何ものかに変わっていった過程を鮮やかに描き出していく。その過程をより精密に捉えるた

め、著者はまずエジプトやギリシア、そしてローマ時代のいわゆる肖像画前史を描き出し、十四世紀から十五世紀にかけてフランスやブルゴーニュ公園で花開いた彩色挿画の歴史をなぞり、さらに末尾では、フランドルの肖像画とイタリアの肖像画とを比較分析し、人物像とそれを囲む中景および背景の処理の違いについて卓見が披露されている。（岡田温司、大塚直子訳 四六判 三三二頁 本体一九〇〇円）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

懐かしのアイドルも総出演！

『写真時代』の時代！

飯沢耕太郎 編著



一九八〇年代を疾風怒濤のごとく席卷した伝説の写真雑誌『写真時代』を再評価する動きが盛りあがっている。『写真時代』は単なる「エロ雑誌」ではない。そこには、むしろエロテイックな幻想を引き裂き、解体してしまおうような、「非実用的」な写真や記事が満載されていた。天才写真家アラキーこと荒木経惟の三大連載「景色」「少女フレンド」「写真日記」、伝説の写真家、森山大道の連載「光と影」「東京」「美しい写真の作り方」をはじめ、北島敬三、倉田精一といった国際的に評価の高い巨匠たちの、アナキ的な表現の場となっていたのだ。また、赤瀬川原平の「超芸術トマンソン」、南伸坊の「面白きゃナンでもイイ！」といった、写真やエロを脱構築する「面白主義」が誌面を賑わし、上野昂志の硬派な評論、橋本治の人生相談など常連の連載も充実していた。

八〇年代といえば、「ロス疑惑」「かいい人21面相事件」などの出来事が頻発し、バブル経済に沸き、「昭和」が終わろうとしていた時代だ。『写真時代』は、当時のふわふわと宙に漂うような気分を、最もヴィヴィッドに反映したメディアだったといえるだろう。多面的な顔をもち、破れがぶれの工

多面的な顔をもち、破れがぶれの工

流れに逆らって 自己を語る

「バルテュスとの対話」

コスタンツォ・コスタンティーニ著

伝説的な取材嫌いで自己を語ることをなかつたバルテュスが、高名な作家でエッセイストのコスタンティーニの簡潔・的確な問いに答えて、九十三年の長い生涯のすべてを語った対談集。対談は一九八九年に開始され、約十年ほどにわたって継続された。パリに生まれ、生涯を通じて西ヨーロッパ人であったバルテュスは、たびたびそのポーランドの出自に立ち返り、父エリック・クロソフスキーや兄ジェルについて話題にしているが、その係累に誇りうる要素が思い出さず残っているのか興味深い。しかし、母親とライナー・マリア・リルケとの誰しもが知りた関係の性格について問われると口をさしてしまふ。

きな魅力である。絵画に対する妥協のない視点、流行追随への断固たる拒否、同世代の画家にかけられた辛辣な批評、いずれも傾聴に値する。パリからヴィラ・メデイチでの旺盛な芸術活動や、シャツシーの家やスイスの山々の恵まれた環境のなかでのしかし孤高の暮らしについて、さらにまた多くの著名人と親交がありながら、決して自己の内面の確信を失うことなかつた巨匠の心情と信条とが率直に語られている。（北代美和子訳 四六判 一四〇頁 本体二八〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

究極の演奏批評

「吉田秀和全集 ② 音楽の時間」

【第 期・全6巻】



21巻は、「音楽の時間」の三巻目に当たる。「今月の一枚」「音楽展望」「音楽批評」という組合わせの構成は前巻までと同じだが、執筆時期は、前巻以降一九九三年までの著作でまとめられている。この巻も演奏論が多くを占めるが、ここで著者は二人の俊英ピアニスト（ウラターとルイサタ）を、実演をま

「音楽展望」は本巻も、古今東西の音楽状況を軸にしながら、絵画や芝居さらには社会と政治にかかわる話題にまで及んでいる。シオスターコーヴィチの音楽造型からハレストロイカとの関係まで、文化と行政のかかわりからヨロップの音楽都市像まで、エッセイの醍醐味が味わえる。（三浦雅士解説 四六判 六一〇頁 本体四八〇〇円）

「音楽展望」は本巻も、古今東西の音楽状況を軸にしながら、絵画や芝居さらには社会と政治にかかわる話題にまで及んでいる。シオスターコーヴィチの音楽造型からハレストロイカとの関係まで、文化と行政のかかわりからヨロップの音楽都市像まで、エッセイの醍醐味が味わえる。（三浦雅士解説 四六判 六一〇頁 本体四八〇〇円）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

「最後のカーニヴァル」としての射程の何ものかを保持していたことを、本書は鋭利に論じている。そうした著者の方法論は、従来の美術史から、民俗学、精神分析、テキスト批評、記号論、哲学など、極めて学際的である。それらを巧みに援用しながら、様々な位相で終焉と誕生の重層化しつつある一九〇〇年頃を舞台に、「ゴヤの《想像力》にカーニヴァルの不滅化を看取し、そのイメージに施された微妙なる「演出」を腑分けすることに、本書は見事に成功している。著者のストイキツァはブカレスト出身で、『絵画の自意識』などの著作が高い評価を受けている、新世代の美術史家である。またスペイン出身のユデルクは彼の夫人で、同様に近現代美術史を専門としている。巨匠の全体像を鮮やかに描いて見せるゴヤ論の決定版。図版多数収録（森雅彦、松井美智子訳 A5判 四一六頁 本体五六〇〇円 1月下旬発売）

賞を総なめにした元気の出る小説

「秘密の手紙 0から10」
シュジー・モルゲンステルン作



ヨーロッパやカナダでなんと十六の賞に輝いた、すばらしく愉快で元気の出るヤングアダルト小説。パリに住むエルネスト少年は十歳。母は彼を産んですぐ亡くなり、父は行方知れず。ものすごく歳を取ったおばあちゃんとの暮しは単調そのものだ。食事のメニューは毎日同じで、家にはテレビも電話もない。ときどき一人てひいおじいさんが書いた古い手紙を見るが、文字は曲がりくねっていて、ひと言も読めない。この家の最大の謎だ。エルネストは学校では優等生だが、友達はいない。すごい美男なので、女の子たちは気を引こうと懸命だが、エルネスト自身は一向に気がつかない。そんなある日、ひとりの転校生の出現で、彼の生活に一大変化が起きる。その女の子ヴィクトワールは、ひと目見たときからエルネストを将来の伴侶と決めてしまった！エルネストが連れていかれた彼女の家にはなんと13人の兄弟がいて、みんなと一緒にエルネストは生まれて初めて笑うことを知る。しかもヴィクトワールと行ったこれまた生まれて初めての買物で、彼は行方不明の父の書いた本を見つけた！（河野万里子訳 四六判 一六八頁 本体一五〇〇円）

最後のタブーを破った感動作

「ヴァギナ・モノログ」
イヴ・エンズラー〔著〕



て読者は、美しく、切なく、力強い彼女たちの言葉を読み進むうちに、深い感動に満たされることだろう。著者のエンズラーは200人を超える女性たちから女性器「ヴァギナ」について話を聞き、それをもとに一人芝居を書いて、ニューヨークを皮切りに、もう何年も全米を回って自ら上演している。オフ・ブロードウェイの最優秀作品賞であるオビート賞を受賞したその芝居をベースに、著者のコメントを加えた本書は最後のタブーに挑戦した問題作として世界各国で大きな反響を呼んだ。著者はなぜこれを書いたのか。なぜ「ヴァギナ」という言葉を口にしつつけるのか。なぜなら口にされなければ目に見えず、認められることもなく忘れられてしまつたら、口にされないものは秘密になり、秘密は恥と恐れと迷信を生む。わたしはこの言葉を言う、わたし自身がいつの日か、恥ずかしさも疚しさも感じることなく、平気でこの言葉を口にできるようになりたいから。いま、一人でも多くの女性に本書を読んでほしい。（岸本佐知子訳 四六判 一三六頁 本体一五〇〇円）

昭和初期の花柳界と芸能

「都新聞藝能資料集 昭和編(上)」
矢野誠〔著〕

好評を博した「大正編」につづく昭和編の上巻。昭和八年までの記事を収録、収録した。際立ってのどかで、けたるような大正時代から、一転ひたひたと迫る未曾有の冬の時代を前にした昭和前期。そんな時代と対峙しながら、いつに変わらぬ軟らかでしなやかな都新聞固有の視線と色彩を、著者ならではの抽出と解説で描く。

昭和の改元、それは「幻の元号『光文』」誤報事件から始まった。内閣筋、あるいは樞密院から漏れたとされる新元号を記事にしてしまったものである。

昭和は、映画が娯楽の雄となる時代でもある。長谷川伸の造語による「銀幕劇」は、さまざまな芸人の活躍する場となった。落語界では、協会派、睦会、三語

樓派、研成社の四派群雄割拠の時代となり、芥川龍之介の自殺が新聞紙面を大きくにぎわす。明治座が開場し、左團次一派の総出演で柿落としを行なったり、全国の花柳界が松竹の芝居や映画をボイコットする事件も起こった。風俗史を知る、絶好の書（A5判 五七八頁 本体一六〇〇円）

演劇を「するための」入門書

「別役実の演劇教室 舞台を遊ぶ」
別役 実〔著〕



「演劇は観るものではなく、するものである」ということ、よく観ることで出来る」といふ著者が、長年の要望に答えて初めて書き下ろした、「演劇を『する』ための入門書」。

内容は演劇学校での授業が基になっているが、プロを目指す人ばかりではなく、一般の人も多数聴講に来ていて、著者はむしろ、本書を後者のために分かりやすく書いたといふ。

目次は、「演劇の中へ」「身体を取り扱う」「言葉を取り扱う」「戯曲を取り扱う」「劇中に入る」「空間を立ち上げる」「演劇の立場」の七章。著者が劇作家ということもあり、「戯曲を取り扱う」の章では、「自作」「受付」を引用しながら、戯曲の構造を綿密に解説している（必読）。また、「舞台で動く」といふ著者が、

作品選定への必携データブック

「高校生のための上演作品ガイド」
岡野宏文著



この本は、国内外の劇作品50本を取り上げた、上演のためのガイドブックです。さまざまな演劇ジャンルや文化祭などで上演作品を選びをすときの、手助けとなることを目的にして作ってあります。

ですから、あらずと簡単な作品解説に加え、所要所のセリフを抜き書きしながらの内容紹介をしております。

また、作品ごとに男女別の登場人数も明記しました。それから、コンクールなどの場合、上演時間にきびしい上限のあることを考え、およびその上演必要時間と、参考までに原稿用紙にしてはほぼ何枚の戯曲も併記してあります。現在の標準的な上演スピードを、400字原稿用紙にして2枚を1分間と考えましたので、目安になること

「オアシス」を目指し、登場人物たちに旅をさせる という設定の長編冒険小説を書き始めた作家が、あることが、執筆中の作品の世界へと連れ込まれた！謎の黒マンツの男に導かれるようになり……という物語の始まり方からして楽しい、ピルグリム（聖地を求めてさすらう巡礼者）に希望を託す、愉快な冒険ファンタジー。

「第三舞台の20周年と封印10年宣言をした後、僕は第三舞台の戯曲の『クラシック・シリーズ』というものを始めようと思っていました。第三舞台の20年で書いた作品を、時代性を極力排して、普遍性を中心に作品を書き換えようという計画です。（……）この地球

愉快な冒険ファンタジー

「ピルグリム[クラシック版]」
鴻上尚史〔作〕

存在する、目に見えない「ネットワーク」。そして、「共同体」と「オアシス」。そして「ユートピア」。それらは、普遍的な構造だと思えます（本書「まえがき」に載せて）より。

本書は、一九八九年初演の佳作を大幅に改稿し、決定版として刊行するものである。「オウムや9・11テロを経験して、『ユートピア』ではなく、『オアシス』を目指そうという気持ちが強くなりました」といふ著者の考えが、色濃く反映された内容となっている。

市川右近と富田靖子の主演を得て、新国立劇場で再演された話題作だ。（四六判 二〇一頁 本体一六〇〇円 1月下旬発売）

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusisha.co.jp

白水社・2002年度ベストセラー20

（辞典・語学書・白水Uブックスは除きます） 表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

- | | | | |
|----|---|----|-------------------------------------|
| 10 | カフカ小説全集6
旋の巻 池内紀 | 19 | ファントム・ペイン
鴻上尚史 |
| 9 | エルメールデルフトの眺望
アンソニー・ペイリー 木下哲夫訳
神話に包まれた巨匠に肉薄する評伝の決定版 2800円 | 18 | ガートルードとクロディアス
ジョンアップダイク
2400円 |
| 8 | カモメに飛びこを教えた猫
ルイス・セブルベタ 河野万里子訳
刊行以来五年のロングセラーを続ける感動作 1500円 | 17 | 比喩の日本語
榎谷泰明
2000円 |
| 7 | 嵐をつかまえて
ティムボウラー 小竹由美子訳
スリリングなヤングアダルト小説 1700円 | 16 | 過去の克服 ヒトラー後のドイツ
石田勇治
2500円 |
| 6 | 地名の魅力
谷川彰英
全国の地名の本質と楽しさを示す類稀な書 1900円 | 15 | 「無言館」への旅
窪島誠一郎
1900円 |
| 5 | 天国までもう一步
アン・L・代田聖子訳
アメリカで幸せを掴もうとした韓国移民の一家、だが思いがけない苦しみか：全米図書館協会最優秀賞受賞のヤングアダルト小説 1500円 | 14 | 女たちの荷風
松本哉
2200円 |
| 4 | カモ少年と謎のペンフレンド
ダニエル・ペナツク 中井珠子訳
謎の少女と文通を始め、誰とも口をきかなくなつた親友カモ、ほくは真相解明に乗り出すが：フランスの少年少女に大人気の物語 1400円 | 13 | 唄に聴く沖繩
松村洋
1900円 |
| 3 | マーン・ドレスタラーの夢
スティーヴン・ミルハルツァ 柴田元幸訳
20世紀初頭のニューヨーク、想像力を武器に成功の階段を昇る若者の究極の夢とは……。ピュリッツァー賞受賞の傑作長編小説 2000円 | 12 | 世界で一番いのちの短い国
山本敬晴
1400円 |
| 2 | 山の上ホテル物語
常盤新平
多くの作家に愛された、小さなホテルの「サービス」とは、山の上ホテルの裏方たちを訪ねて知る「良質」へのこだわり。 1900円 | 11 | 不肖の息子
森下真一
1900円 |
| 1 | 発声と身体のリッスン
魅力的なこえとからだを作るために
鴻上尚史
1700円 | 20 | 食糧棚
ジムクレイス
2200円 |

語学書新刊コーナー

あなただけの秘密の街歩き

「フィレンツェ・ミステリーガイド」

市口桂子〔著〕



「ルネッサンス」の風を類に受けながら美術館巡りやショッピングを楽しむ。二三日で次の目的地に向かっただけでも、もしあなたがもう一度この街に行きたいと思ったら、それはたぶん、かれらがあなたを呼んでいるからだろう。

それは、記念写真をとった広場の足元に眠る、死体かもしれない。ヴェッキオ宮殿の隠し扉の奥に潜む、

多くの旅行者を魅了する、花の都フィレンツェ。はじめて訪れたあなたは、たぶん「中世」や

「文庫クセジュ」
 「ガンジーの実像」
 ロベール・ドリクシニ著

非暴力や菜食主義で知られているインドの「聖人」ガンジーとは、いったい何者だったのか？ インド人にとってはイメー、シンボル、道案内的存在としてガンジーは「国家の父」である。したがって、彼の業績と人生は彼が「バガヴァッド・ギーター」をそう解釈していたように、時と場合によっては一種の寓話として理解することもできる。

しかし、本書では、ガンジーの生涯の足取りをたどったうえで、その思想についてテーマ別に解説を加えてゆく。マハトマー（偉大なる精神）・ガンジーを歴史における重要な政治家として、スキャンダラスな言動をも明らかにしながら読み解いた、画期的な評伝。（今枝由郎訳 新書判 一七四頁 本体九五一円）

「文庫クセジュ」
 「アレクサンドロス大王」
 ヒエナ・ル・ブリアン著

ギリシアからオリエントに文明をもたらした「使者」として西洋の古代史に名声を轟かしているアレクサンドロス大王。本書は、そういつた従来の通説をしりぞけ、大王の遠征行を概説しながらも、彼が関与した事績を、当時の東方世界をめぐる状況にきちんと位置づけて考察してゆく。

つまり、アレクサンドロス大王の征伐は前一千紀の中東の歴史の流れに位置づけられなければならないし、長きにわたって支配的だったギリシア中心史観から解放されなければならない。

ヘレニズム時代史、アケメネス朝ペルシア史研究の第一人者が、新たな考古学史料をもとに展開する、頼もしい歴史書。

（田村孝訳 新書判 一七〇頁 本体九五一円 1月下旬発売）

文庫クセジュ

「文庫クセジュ」
 「アレクサンドロス大王」
 ヒエナ・ル・ブリアン著

ギリシアからオリエントに文明をもたらした「使者」として西洋の古代史に名声を轟かしているアレクサンドロス大王。本書は、そういつた従来の通説をしりぞけ、大王の遠征行を概説しながらも、彼が関与した事績を、当時の東方世界をめぐる状況にきちんと位置づけて考察してゆく。

つまり、アレクサンドロス大王の征伐は前一千紀の中東の歴史の流れに位置づけられなければならないし、長きにわたって支配的だったギリシア中心史観から解放されなければならない。

ヘレニズム時代史、アケメネス朝ペルシア史研究の第一人者が、新たな考古学史料をもとに展開する、頼もしい歴史書。

（田村孝訳 新書判 一七〇頁 本体九五一円 1月下旬発売）

「文庫クセジュ」
 「アレクサンドロス大王」
 ヒエナ・ル・ブリアン著

ギリシアからオリエントに文明をもたらした「使者」として西洋の古代史に名声を轟かしているアレクサンドロス大王。本書は、そういつた従来の通説をしりぞけ、大王の遠征行を概説しながらも、彼が関与した事績を、当時の東方世界をめぐる状況にきちんと位置づけて考察してゆく。

つまり、アレクサンドロス大王の征伐は前一千紀の中東の歴史の流れに位置づけられなければならないし、長きにわたって支配的だったギリシア中心史観から解放されなければならない。

ヘレニズム時代史、アケメネス朝ペルシア史研究の第一人者が、新たな考古学史料をもとに展開する、頼もしい歴史書。

（田村孝訳 新書判 一七〇頁 本体九五一円 1月下旬発売）

本の十字路

耳のいい人がつらやましい。これまで聞きまちがいでいた、どれほど失礼をしたか、また又力喜びをしたことか。家で、レンジの電子音があるメロディをかき立てているらしく子どもたちはシレンソミなどと調子を合わせているがこちらにはそういつた従来の通説をしりぞけ、大王の遠征行を概説しながらも、彼が関与した事績を、当時の東方世界をめぐる状況にきちんと位置づけて考察してゆく。

つまり、アレクサンドロス大王の征伐は前一千紀の中東の歴史の流れに位置づけられなければならないし、長きにわたって支配的だったギリシア中心史観から解放されなければならない。

ヘレニズム時代史、アケメネス朝ペルシア史研究の第一人者が、新たな考古学史料をもとに展開する、頼もしい歴史書。

（田村孝訳 新書判 一七〇頁 本体九五一円 1月下旬発売）

「精選問題 フランス文法力だめし」 鳥居くらら〔著〕

本書は、過去4年間の大学入試問題を整理分析し、「法と時制」「関係代名詞」「代名詞」「話法」「前置詞と接続詞」「派生語」ほか、さまざまなタイプによって12のジャンルに分け、必要に応じて「学習のポイント」を付した文法問題集です。巻末付録の「派生語一覧」「慣用句表現」も充実。大学受験者はもちろん、仏検2級をめざす学習者の基礎固めにも最適です。 A5判 177頁 本体1800円 1月下旬発売

「フランス文法の入門」(CD付・改訂版) 島岡 茂〔著〕

教室やテレビ・ラジオ等で学習しているフランス文法を整理したい、ということならば、初級文法のエッセンスを見やすくまとめた本書がおすすです。例文の提示、ポイントの解説、そして確認のための練習問題が、十分な余白をもって見開き2頁に配置されていますので、学習者は入門期に必要な事項を、無理なく確実に記憶することができるでしょう。 (2色刷)四六判 238頁 本体1900円

「フランス語のABC」(CD付・新装版) 数江譲治〔著〕

発売以来、万人向けの入門書として多くの人々に愛用されてきた名著にCDがつきました。「星の王子さま」を原書で読んでみたい、というような人には、書き言葉中心の本書が最適。初級者が疑問を抱きそうなポイントを中心に、ひとつひとつの事項が、あくまで学習者の進度を考えながらかみかみくわ説明されています。簡便な入門書よりやや厚めなのも、丁寧さの証です。 (2色刷)四六判 274頁 本体1800円

「ドイツ語のABC」(シングルCD付・改訂版) 在間 進、中村哲夫〔著〕

「文法がスッキリ分かる!」と大好評を博してきた入門書のベストセラーに、シングルCDが付きました。もちろん今回は新正書法準拠です。語学の基礎となる発音編は丁寧に解説、CDに収録 重要な文法事項や文例はワクワクみなので一目瞭然しかも基本単語集と不規則変化動詞表の付録つきです。ルビ付きなので、全くの初心者にもお薦めの一冊! (2色刷)四六判 251頁 本体1600円

「イタリア語のABC」(CD付・新装版) 長神 悟〔著〕

これからイタリア語をはじめの人から、大学の授業や講習会の予習・復習に用いる人まで幅広い学習者のニーズに応えるオーソドックスな入門書。文法の基礎から細かな注意事項まで詳しく解説。すべての単語と例文にわかりやすい発音ルビが付き、付属CDとあわせて音声面の対策も十分。この一冊でイタリア語のマスターを目指してください。 (2色刷)A5判 252頁 本体2600円

本を読むのははげしい、長いお正月休みでした。この時期の読書には、各メディアで発表された2002年のベストテンなどを参考になさる方も多いことでしょう。かくいう私も、敬愛する書評家の豊崎由美氏が薦めているものは絶対ハズレなしなので、既読・未読をチエック。舞城王太郎の「世界は密室でできている」(講談社刊)は、私も読んで中々で昨年ベスト。ジェラルド・カーシュ「壇の中の手記」(晶文社刊)もよかったです。なんて思っていたらシマッタ。氏が何度も取

り上げて下さっているアレックス・サンドロ・パリックの「シテイ」(小社刊)をまだ読んでいませんでした。まずは手近なところを押さえておかなければ、と反省。

今年もこの「白水社の本棚」の中から、みなさんのお気に入りが見つかりますよ。ご案内してまいりますので、よろしくお願いたします。

【お願】住所表記が変更になりました。御名前、新住所・旧住所、お届け先を記載しております本紙のお客さまコードをお知らせください。

辞典

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusisha.co.jp

誰にも使える / 分かりやすく楽しい / 画期的学習中辞典

2003年3月発売
 刊行が遅延したことをお詫言いたします。
 監修 前田敬作
 編集 山本雅昭 / 岸孝信 / 服部尚己 / 友田和秀 / 松村朋彦
 B6変型判 1900頁【2色刷】4,000円

フロイデ 独和辞典

学習辞典の学びやすさと中辞典の規模を兼ね備えた画期的辞典。記述はドイツ・ヨーロッパ文化の背景にまで及ぶきめ細かなものとなっており、多方面に渡る新語の採録で現代世界への目配りも充分。ドイツ語のトータルな世界を学ぶ楽しむための最適な辞典となっている。

見出し語数7万5千 見やすく分かりやすい2色刷 新旧正書法完全対応 見出し語4段階グレード分け 重要語カナ表記付き
 ドイツ・ヨーロッパ文化の理解を深める豊かな文化的記述
 充実した語源記述 豊富な用例 多方面に渡る新語の採用
 ユニークな付録(和独索引/図解小辞典/聖人暦/ドイツ歌曲選ほか)

『現代フランス語辞典』がタイトルも新たに改訂!

2003年2月発売
 中條屋進 / 丸山義博
 G.メランベルジェ / 吉川一義【編】
 見出し語35,000語
 B6変型判 1815頁【2色刷】
 【シングルCD付】3,800円

デイコ 仏和辞典

よく分かる学習辞典のナンバーワン ユーロの時代の仏和辞典
 2002年、フランからユーロに切り替わった通貨表現をすべて洗い直し、例文もユーロ表記に改めました。
 現代社会の新語を満載 インターネットの用語など、増え続ける新語新語義を補充し、大きく変わった職業名の性別も見直しました。
 この一冊で和仏もOK
 和仏索引を大幅増ページ、「パソコン」「医療」「環境」等、現代社会のキーワードの囲み欄を作り、世界の国名と首都一覧を付す等、同時代に発信する仏和辞典の機能を拡充しました。